

(地 94)

令和 3 年 5 月 2 7 日

都道府県医師会

担 当 理 事 殿

日本医師会常任理事

釜 菴 敏

(公印省略)

厚生労働科学特別研究事業

「看護師等養成所における新型コロナウイルス感染症対策ガイドライン」の送付について

今般、厚生労働科学特別研究事業（研究代表者：小山田恭子聖路加国際大学大学院教授）において、「看護師等養成所における新型コロナウイルス感染症対策ガイドライン」が取りまとめられ、厚生労働省医政局看護課より本会に対して周知方依頼がありました。

各看護師等養成所では、既に様々な感染対策を実施していただいているところですが、本ガイドラインも適宜参考にいただければと存じます。

つきましては、貴会におかれましても本件についてご了知いただきますとともに、貴会管下医師会立看護師等養成所への周知方につき、ご高配のほどよろしくお願ひ申し上げます。

事務連絡
令和3年5月27日

公益社団法人日本医師会 御中

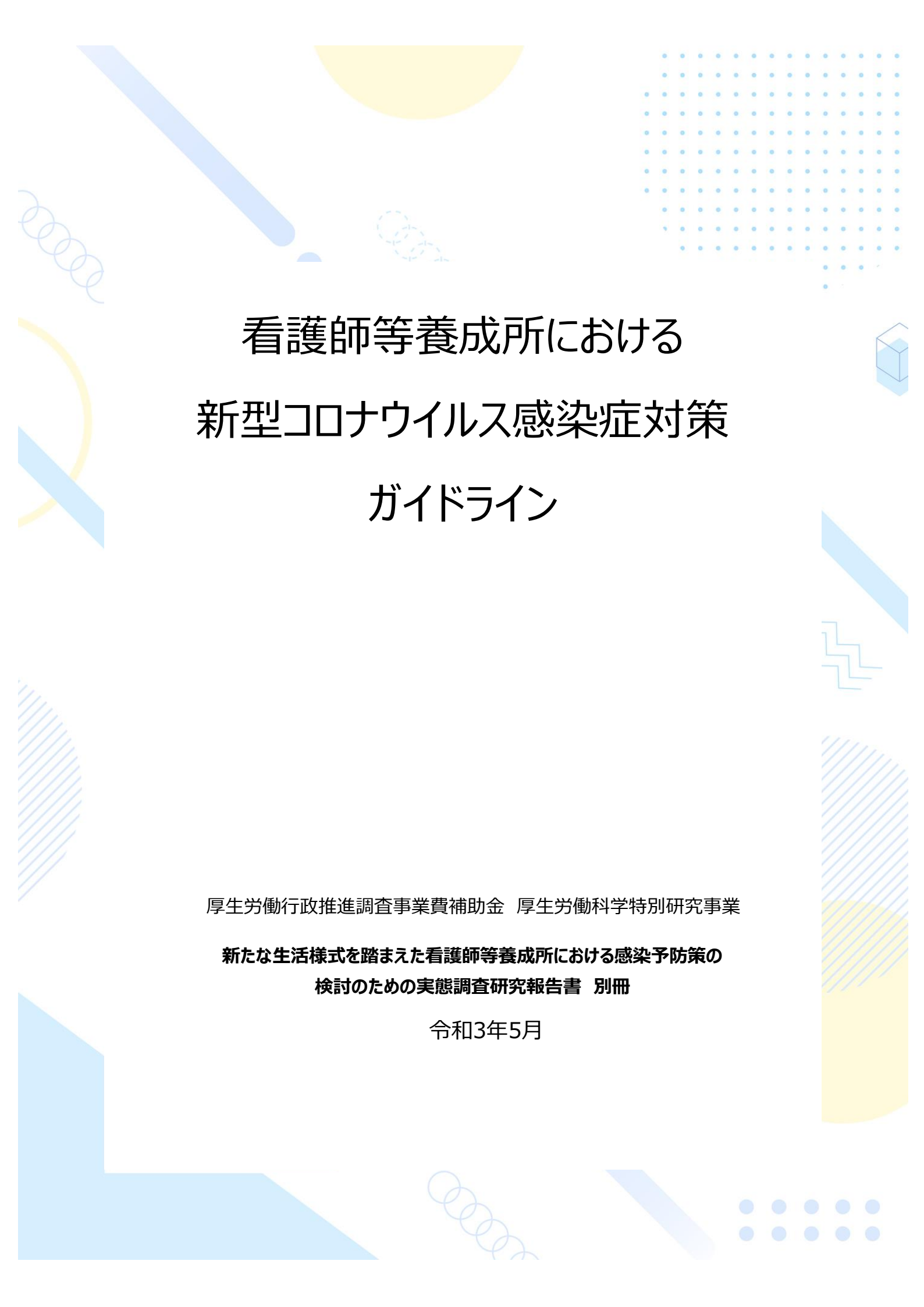
厚生労働省医政局看護課

「看護師等養成所における新型コロナウイルス感染症対策ガイドライン」
について（周知依頼）

看護行政の推進については、平素より格別のご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

今般、厚生労働行政推進調査事業費補助金 厚生労働科学特別研究事業（研究代表者 聖路加国際大学 小山田恭子氏）において、「看護師等養成所における新型コロナウイルス感染症対策ガイドライン」が取りまとめられました。

つきましては、貴下団体会員等への当ガイドラインの周知をお願いいたします。今後とも、ご協力を賜りますよう宜しくお願い申し上げます。



看護師等養成所における 新型コロナウイルス感染症対策 ガイドライン

厚生労働行政推進調査事業費補助金 厚生労働科学特別研究事業

**新たな生活様式を踏まえた看護師等養成所における感染予防策の
検討のための実態調査研究報告書 別冊**

令和3年5月

はじめに

保健師、助産師、看護師及び准看護師養成所（以下「看護師等養成所」という。）は、1. 感染拡大防止と学修機会の確保 2. 学生の立場に立った配慮、情報提供及び支援、3. 教職員の業務のあり方と体制確保を行いながら、看護職者の養成を継続していくことが求められている*。

このガイドラインは、新型コロナウイルス感染症流行下における全国の看護師等養成所の感染対策の実態調査、および国の基本方針等に基づき養成所運営の支援を行うために作成された。

流行状況には地域性があるので対策の緩急は必要であり、また、今後ワクチン接種の拡大によりさまざまな状況の変化が予測される。一方、流行が低減している地域であっても、感染対策の基本は継続すべきであり、当ガイドラインが「新しい生活様式」に基づく看護師等養成所の運営の一助となることを期待する。

研究代表者 小山田 恭子（聖路加国際大学）

※大学等における新型コロナウイルス感染症への対応ガイドラインより（文科省；令和2年6月5日）

<研究組織>

研究代表者

小山田 恭子 聖路加国際大学大学院 教授

研究分担者

菅原 えりさ 東京医療保健大学大学院 教授

三浦 友理子 聖路加国際大学大学院 講師

研究協力者

池西 静江 日本看護学校協議会 会長

大石 有香 愛仁会看護助産専門学校 教育主事

守谷 明子 埼玉県医療人材課 主幹

青木 美香 聖路加国際大学大学院看護学研究科博士課程

本ガイドラインに関する問い合わせ先：oyamada.kaken@gmail.com

目次

1. 新型コロナウイルス感染症とは	1
2. 新型コロナウイルス感染症の基本対策(新しい生活様式の基本)	2
3. 養成所での具体的対策	4
4. 教職員の対応	7
5. 学生への対応	8
6. 授業の対策(講義)	8
7. 授業の対策(演習)	9
8. 授業の対策(実習)	10
9. 教員・学生に陽性者が発生した場合	11
10. 寮における感染対策	11

1. 新型コロナウイルス感染症とは

2019年12月、中華人民共和国の湖北省武漢市で肺炎患者の集団発生が報告された。この新型コロナウイルス（SARS-CoV-2）の感染は世界に拡大し、2020年1月30日世界保健機関（WHO）は公衆衛生上の緊急事態を宣言した。日本国内では、1月16日に初めての患者が報告された。

2021年3月現在、日本および世界の流行は継続しており、長期的な対策を強いられている。今後、変異ウイルスの出現やワクチン接種が進むことにより、状況は変化してくることが考えられるので、その都度情報収集するとともに、各自治体からの情報も注視してほしい。

病原微生物：エンベロープ（膜）を保有する新型コロナウイルス（SARS-CoV-2）

ウイルスは粘膜を介して細胞に付着することで増殖していくが、新型コロナウイルスは、モノの表面においても24時間から72時間ほど生存し感染力を持つといわれている。

伝播経路：飛沫感染（1mから2m程度で落下する飛沫で伝播）、接触感染

飛沫感染が主体と考えられ、換気の悪い環境では、咳やくしゃみなどがなくても感染すると考えられる。また、ウイルスを含む飛沫などによって汚染された環境表面からの接触感染もあると考えられる。

潜伏期間：約5日程度（1～14日）

症状：初期症状はインフルエンザや感冒に似ており、多くの症例で発熱、呼吸器症状（咳、咽頭痛、鼻汁、鼻閉など）、頭痛、倦怠感などがみられる。また、嗅覚症状・味覚症状を訴える患者が多い。

※上記は2021年3月末現在の情報であり、今後修正される可能性がある。



出典：新型コロナウイルス感染症について

https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000164708_00001.html

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）診療の手引き・第4.2版、2021年2月19日

